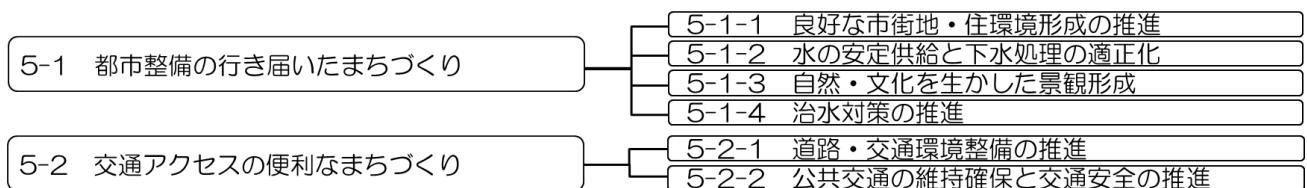


## 【まちのイメージ5】

### 快適で利便性の高いまち

#### (都市・生活基盤)



5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

5-1-1 良好な市街地・住環境形成の推進

目指す姿

コンパクトで秩序のあるまちづくりのための取組が進んでいるとともに、周辺環境に調和した住みやすくにぎわいのある市街地が形成されています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
周辺環境と調和した土地利用がされていると思う市民の割合	55.0%	56.8%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和が取れている」と答えた市民の割合であり、良好な市街地・住環境形成が推進されているかを測る指標です。		
新築住宅のうち市街化区域等(用途地域)内にあるものの割合	62.7%	62.7%
市内全域の新築件数のうち、市街化区域内及び非線引き区域用途地域内に建てられた新築件数の割合であり、地域の特性に応じた市街地が形成されているかを測る指標です。		

現状と課題

【施策を取り巻く社会状況】

人口減少の進行により人口の低密度化が進んでいます。今後、さらなる市街地の低密度化や分散化が進んだ場合には、医療や福祉施設、商業施設などの生活利便施設の衰退や、地域コミュニティの低下など、市民生活にさまざまな悪影響を及ぼすことが懸念されています。また、自治体が維持管理している公共施設やインフラ施設では、老朽化が進んでいる施設も多くなり、財政面においても持続可能な都市経営を維持することが大きな課題となっています。

【深谷市の状況】

- 平成 23 (2011) 年度に「深谷市都市計画マスタープラン」を策定し、エコでコンパクトな都市機能の実現に向け、居住環境の維持や改善などに努めています。また、「深谷市立地適正化計画」の策定により、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりの実現に向けて検討しています。今後は人口減少の中で生活利便施設やコミュニティ施設が持続的に確保されるよう一定のエリアにおいて人口密度を維持するための取組を進めることが課題となっています。
- 無秩序な住宅地形成による市街地の分散を防ぐため、都市基盤整備を行い、居住環境の改善を図ることが必要です。また、平成 22 (2010) 年度に「深谷市営住宅長寿命化計画」を策定し、既存の住宅の長寿命化に資する改善計画及び、耐用年数が経過した住宅の用途廃止の方針などを示したところであり、今後は計画的に適切な維持管理を行うことが必要です。

## 取組方針

### 1 地域の特性に応じた市街地を形成します

立地適正化計画において、「都市機能誘導区域」を設定し、地域の特性に応じた医療や福祉施設、商業施設などの生活利便施設を誘導集約することにより、快適な生活環境を備えた市街地の形成を図ります。

■主な事業■  
都市計画事務

### 2 住みやすく快適で良好な土地利用を行います

立地適正化計画において、「居住誘導区域」を設定し、市街地の分散を防ぎ、居住の適正化を図ります。また、土地区画整理事業による都市基盤整備を引き続き行い、良好な居住環境の形成を促進します。さらに、既存の市営住宅の適切な維持管理を計画的に行うなど、安全で安心して生活ができる住環境の形成を図ります。

■主な事業■  
都市計画事務、中央・岡中央・国済寺土地区画整理事業、市営住宅管理事業

## 関連する個別計画

深谷市都市計画マスタープラン、深谷市公共施設等総合管理計画、深谷市公共施設適正配置計画、深谷市立地適正化計画、深谷市営住宅長寿命化計画

5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

5-1-2 水の安定供給と下水処理の適正化

目指す姿

水道施設を適正に維持・更新し、安全で安心な水道水を安定的に供給するとともに、下水道の整備が進むことにより、市民が衛生的で快適な生活を送っています。また、上下水道事業運営の健全化に取り組み、持続可能な運営を行っています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)	
<b>水道管の耐震化率</b>	<b>13.5%</b>	<b>19.9%</b>	
水道管総延長のうち、耐震化された水道管延長の割合であり、安全で安心な水道水の安定的な供給が行われているかを測る指標です。なお、下水道管については、今後検討することとしています。			
<b>汚水処理人口普及率</b>	<b>93.0%</b>	<b>96.8%</b>	
公共下水道と農業集落排水の使用ができる区域内の人口に、これら区域外の合併処理浄化槽による処理人口を足した値を、市内の総人口で除した割合であり、汚水処理対策が行われているかを測る指標です。			
<b>経費回収率</b>	<b>水道</b>	<b>86.9%</b>	<b>90.0%</b>
	<b>下水道</b>	<b>66.4%</b>	<b>90.0%</b>
料金収入でどの程度経費を賄えているかを示す割合であり、事業が健全に運営されているかを測る指標です。			

現状と課題

【施策を取り巻く社会状況】

上下水道については、保有する資産の老朽化に伴う大量更新期の到来や、人口減少などに伴う使用量の減少による料金収入の減少により、経営環境は全国的に厳しさを増しており、不断の経営健全化の取組が求められています。また、東日本大震災を受けて、上下水道施設の耐震化の重要性が高まっています。

【深谷市の状況】

- 1 水道事業の機能強化を図り、老朽化の著しい幡羅町浄水場と普濟寺浄水場の岡部浄水場への統廃合や本田配水場の新設、水道管の耐震化などの対策を進めてきました。しかし、水道管の耐震化率は、埼玉県平均と比較しても低水準であり、一層の推進が求められています。
- 2 生活排水による河川や水路などの公共用水域の水質汚濁を防止するため、下水道の整備や合併処理浄化槽への転換を進めてきましたが、公共下水道施設や農業集落排水施設は、供用開始から30年以上経過する施設が増えてきており、安全で安定的な事業運営のため、施設の改築更新が必要です。
- 3 水道事業については、人口減少などに伴う使用量の減少により料金収入が減少していくとともに、

施設の更新需要が増大していくことから、事業運営の健全化が必要となっています。下水道事業についても、厳しい経営状況となっており、事業運営の健全化が求められています。

## 取組方針

### 1 安全で安心な水道水を安定的に供給します

安全で安心な水道水を安定的に供給し、災害時のライフラインを確保するため、老朽化した水道管を順次更新するとともに、皿沼浄水場や花園第二配水場などの施設の更新や耐震化を計画的に進めます。また、保守点検を継続的に実施し、安全な水源の確保を推進します。

■主な事業■

老朽管更新事業、施設整備事業

### 2 汚水・雨水処理対策を行います

公共下水道汚水管路の整備や下水道処理施設の老朽化対策を計画的に推進します。また、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、既存のくみ取り便槽や単独処理浄化槽から、合併処理浄化槽への転換及び浄化槽の適正な維持管理を促進します。雨水処理対策については、雨水幹線管路の整備を計画的に推進します。

■主な事業■

生活排水対策事業、管渠建設事業、浄化センター建設事業、農業集落排水施設機能強化事業

### 3 上下水道事業運営の健全化に取り組みます

広報紙などにより、上下水道事業の実施状況や経営状況を周知し、事業に対する理解度の向上を図ります。また、収支計画に基づいて、収支のバランスを取りながら投資を行うとともに、事業の執行状況に応じて収支計画の進捗管理を行うことにより、健全運営を推進します。なお、下水道関連施設については、より効率的な運営に向けて、処理区域の統合を検討します。

■主な事業■

水道企業会計管理事務、下水道企業会計管理事務

## 関連する個別計画

深谷市水道事業地域水道ビジョン、深谷市生活排水処理基本計画、深谷市水道事業経営戦略、深谷市下水道事業経営戦略

5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

5-1-3 自然・文化を生かした景観形成

目指す姿

豊かな自然環境が市民との協働により適切に保全され、身近にうるおいとやすらぎを感じられる自然が増えています。また、特色ある景観が形成され、個性と魅力を感じられるまちになっています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
身近に自然に親しめる環境があると思う市民の割合	70.1%	72.3%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「身近に自然に親しむことができる環境がある」と答えた市民の割合であり、自然にあふれたまちづくりが行われているかを測る指標です。		
市内に魅力的なまち並み・景観があると思う市民の割合	43.1%	46.1%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内に魅力的なまち並みや景観がある」と答えた市民の割合であり、まち並みの景観形成が行われているかを測る指標です。		

現状と課題

【施策を取り巻く社会状況】

全国的に水際利用に対する関心が高まっており、それに伴って水辺空間に憩いやうるおいのある環境の形成が進んでいます。また、近年、地域固有の住環境から生み出された景観やまち並みに対する関心が全国的に高まっており、世界文化遺産や世界自然遺産に登録されている地域も増加しています。

【深谷市の状況】

- 1 土地区画整理事業をはじめとして市内の公園の整備を進めてきましたが、一部の施設では老朽化が進んでいるため、安全で安心して利用できる公園の整備が課題となっています。また、公園以外にも、市内には利根川や荒川といった河川の水辺環境や鐘撞堂山などの豊かな自然がありますが、これら恵まれた自然を将来にわたって保全することが求められています。
- 2 まちの景観については、仙元山公園や鐘撞堂山の森林、一部地域の防風林や自然林、市内全域に点在する屋敷林などが、特色ある景観を形成しています。そのほかにも、かつて日本で最初の機械式レンガ工場である日本煉瓦製造株式会社が存在していたことから、まち並みにおいても、レンガ造りの建造物が数多く残されています。平成 28（2016）年度に深谷市レンガのまちづくり条例の改正を行い、レンガのまち並みを形成するエリアを中心市街地に絞ることで、戦略的なまち並みの形成を進めてきました。今後も市内の景観に対する市民の意識の向上を図り、景観づくりによる魅力を高め、個性あるまち並みの形成に取り組む必要があります。

## 取組方針

### 1 自然にあふれたまちづくりを行います

豊かな自然を保全するため、鐘撞堂山の森林などの公共的な緑地の維持管理を適切に行います。また、市内にある公園について、市民に親しみやすい魅力ある公園に整備するとともに、公園施設の点検や整備を定期的に行い、適切に維持管理を進めます。

#### ■主な事業■

総合公園維持管理事業、近隣公園維持管理事業、街区公園維持管理事業、鐘撞堂山ふるさとの森管理事業

### 2 まち並みの景観の形成に取り組みます

「レンガを活かしたまちづくり」をはじめ、本市の持つ自然、歴史や文化などの魅力を生かし、深谷らしさを表す景観の保全を進めます。また、本市の景観を市内外にPRし、市民の郷土愛の醸成や、来訪者が本市に住んでみたいと魅力を感じられるように取組を推進します。

#### ■主な事業■

都市景観事務

## 関連する個別計画

深谷市緑の基本計画

【まちのイメージ5】快適で利便性の高いまち（都市・生活基盤）

## 5-1 都市整備の行き届いたまちづくり

### 5-1-4 治水対策の推進

#### 目指す姿

河川の改修や排水対策により、はん濫などの災害リスクが徐々に減少し、人々の水害に対する安心感が高まっています。

## まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
市民の水害に対する安心度	75.5%	75.5%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「水害に対して安心した生活を送ることができている」と答えた市民の割合であり、治水対策が推進されているかを測る指標です。		
宅地など浸水箇所数	3棟	0棟
国土交通省水害統計調査における、台風等の豪雨により床上・床下浸水した被災家屋の棟数であり、治水対策が推進されているかを測る指標です。		

## 現状と課題

### 【施策を取り巻く社会状況】

近年、局地的な集中豪雨による災害が全国各地で多発しています。治水対策や浸水対策を着実に推進することが必要不可欠になっています。

### 【深谷市の状況】

- 1 台風などの大雨により床下浸水や道路冠水が発生しています。利根川、荒川といった主要河川のほか、準用河川や普通河川、その他数多くの排水路が存在しており、災害発生の防止・軽減の観点からも河川改修などの治水対策が重要となっています。
- 2 内水はん濫の危険から地域を守るための排水機場などは、老朽化している施設の改修や大雨時に不具合なく機能するように適切な維持管理を行う必要があります。



## 取組方針

### 1 河川の改修を行います

台風や集中豪雨などによる災害に対する治水対策を講じるため、利根川、荒川などの主要河川の改修を促進するとともに、準用河川や普通河川の改修を推進します。

■主な事業■

河川整備管理事業、排水路整備管理事業

### 2 河川管理施設などの適切な維持管理に取り組みます

河川や排水路の日常の巡視や点検を実施し、適切な維持管理に努めます。また、内水はん濫の危険から地域を守る排水機場の定期的な点検や修繕を実施するとともに、老朽化が進んでいる施設に対する更新工事の早期完了を促進します。

■主な事業■

排水機場管理事業、河川整備管理事業、排水路整備管理事業

## 5-2 交通アクセスの便利なまちづくり

### 5-2-1 道路・交通環境整備の推進

#### 目指す姿

道路などの整備が計画的に行われるとともに、不具合に対して適切に対応することにより、誰もが安全で快適に道路を利用しています。

## まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
日常生活の道路利用において、特に不便を感じていない市民の割合	43.1%	44.9%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはない」と答えた市民の割合であり、道路・交通環境の整備が推進されているかを測る指標です。		
道路維持管理上の苦情件数	1,069件	1,016件
1年間における市民からの道路維持に関する苦情件数であり、道路施設の計画的な維持管理が行われているかを測る指標です。		
道路・橋りょう維持管理上の事故件数	8件	0件
市が管理する道路における管理瑕疵により保険適応となった事故件数であり、道路施設の計画的な維持管理が行われているかを測る指標です。		

## 現状と課題

### 【施策を取り巻く社会状況】

高度成長期に一斉に建設された道路関係施設の老朽化が進んでいることから平成 24（2012）年 12 月の中央自動車道笹子トンネルでの天井板落下事故や、全国の橋りょうの 70%を占める市町村が管理する橋りょうでの通行止めや車両重量などの通行規制の増加などが生じており、道路及び橋りょうの維持管理体制の構築が求められています。

### 【深谷市の状況】

- 1 市内の拠点や主要な施設を結ぶ幹線道路は、市内の道路ネットワークを形成する上で重要な役割を果たすものです。このため、市内の幹線道路については継続的に整備を進めています。また、毎年度自治会から身近な生活道路の整備に関する要望が多数提出されており、市民にとって利便性の高い道路を整備することが求められています。
- 2 道路及び橋りょうの老朽化が進んでおり、舗装の穴や側溝の劣化による蓋落ちなど市民の安全を脅かすおそれのある破損が増加しています。このため、道路パトロールの実施による損傷個所の早期発見、早期対応に努めるとともに、深谷市橋梁長寿命化修繕計画を策定し、計画的な修繕を行っています。今後も道路や橋りょうの状況に応じた計画的な修繕などにより、道路、橋りょうの長寿命化を図る必要があります。

## 取組方針

### 1 安全で便利な道路の整備を行います

市内の道路ネットワークの充実を図るため、引き続き、幹線道路の整備を計画的に推進します。また、日常生活の利便性・安全性を高めるため、今後も、緊急性や必要性を考慮し、生活道路の効果的な整備を推進します。

#### ■主な事業■

都市計画道路整備事業、幹線道路整備事業、生活道路整備事業

### 2 道路施設の計画的な維持管理に取り組みます

道路の安全性、快適性を維持するため、引き続き、損傷個所の早期発見、迅速な対応を行い、道路の適切な維持管理に努めます。また、深谷市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、引き続き計画的に予防保全型の維持管理を行い、橋りょうの安全性確保と維持管理コストの縮減を図ります。

#### ■主な事業■

道路維持管理事業、橋りょう維持管理事業

## 関連する個別計画

深谷市橋梁長寿命化修繕計画、深谷市都市計画マスタープラン

5-2 交通アクセスの便利なまちづくり

5-2-2 公共交通の維持確保と交通安全の推進

目指す姿

市内の公共交通ネットワークの維持向上により、市内外とのアクセスがしやすいまちへ進んでいます。また、市民の交通安全に対する意識が向上するとともに、道路を安全に利用できる環境が整い、交通事故が少なくなっています。

まちづくり指標

指標名	現状値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 34 年度)
市内の公共交通機関の利便性(時間、本数、路線、サービス)に不便を感じている市民の割合	49.9%	49.9%
深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「時間、本数、路線、サービスなど、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じている」と答えた市民の割合であり、公共交通の維持確保の取組が行われているかを測る指標です。		
交通事故死傷者数	714人	679人
1年間の市内における交通事故死傷者数であり、交通安全対策が充実しているかを測る指標です。		

現状と課題

【施策を取り巻く社会状況】

高齢化の進行により、車を利用できない交通弱者の増加が見込まれ、日常の買い物や病院への通院などの移動手段として公共交通の役割が高まっています。また、全国的に、交通事故死者数は減少傾向にあるものの、高齢者の占める割合が大きくなっています。

【深谷市の状況】

- 1 JR 高崎線と秩父鉄道の鉄道駅を結節点として、路線バスやコミュニティバスを運行しています。本市では高齢化の状況などを踏まえ、駅のバリアフリー化の支援などに取り組んできました。今後は、更に進んでいく高齢化や人口減少に配慮した、効率的かつ効果的な公共交通ネットワークの構築に取り組む必要があります。
- 2 交通事故死傷者数の減少に向け、通学路の交通安全対策などを中心に道路交通環境の整備を進めています。今後も引き続き、道路交通環境の維持・向上に取り組む必要があります。
- 3 市民の交通安全意識の向上を図るため、交通安全教室などを通じて子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民への働きかけを行っています。今後も市民一人ひとりが交通安全に配慮し行動できるよう、引き続き、交通安全意識を啓発する必要があります。

## 取組方針

### 1 公共交通の維持確保に取り組みます

市内の公共交通ネットワークの維持確保を図るとともに、バリアフリー化の促進などにより利用しやすい環境整備に努めます。また、公共交通の利用実態に即した効果的で効率的な運行ルートの設定など、持続可能な公共交通体制の構築に努めます。

■主な事業

コミュニティバス運行事業

### 2 交通安全対策を充実します

交通事故が多発する地点や通学路において、路面表示の設置・修繕、道路照明灯や道路反射鏡などを設置し、通行者の安全性の向上を図ります。また、駅周辺の安全性と駅利用者の利便性を確保するため、駐車場及び駐輪場の適切な維持管理に努めるとともに路上駐車や放置自転車の抑制を図ります。

■主な事業■

交通安全施設整備管理事業、道路照明灯・反射鏡設置管理事業

### 3 交通安全に対する意識を高めます

交通安全意識を高めるため、警察などの関係機関や交通指導員などと連携を図り、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民へ交通安全に関する教室やキャンペーンなどの啓発活動を継続的に実施します。また、広報紙などの多様な広報媒体を活用し、市民に対して交通安全に関する情報や知識を積極的に発信します。

■主な事業■

交通安全啓発事業、交通指導員運営事業

## 関連する個別計画

深谷市交通安全対策実施計画、通学路整備計画